

兵庫県議会ひょうご県民連合議員団 管内調査 報告書

2021年12月14日(火)～15日(水)



I 管内調査 参加者

議員名	役職
上野英一	幹事長
黒田一美	政務調査会長
向山好一	副幹事長
相崎佐和子	政務調査副会長
小池ひろのり	
石井健一郎	
竹内英明	
栗山雅史	
迎山志保	
前田ともき	
中田英一	
北上あきひと	
木戸さだかず	

Ⅱ 調査日程

神戸・但馬・丹波：2021年12月14日（火）～15日（水）

月日	着	発	調査施設名	備考
12/14 (火)		9:00	県庁3号館1階玄関前	
	9:30	10:30	初代県庁館 [11/3 開館。施設見学、バーチャルツアー]	神戸市兵庫区中之島2-1-17
			(昼 食 ・ 移 動)	
	13:30	14:30	丹波県民局 [移住・定住促進の取組 (移住・環流プロジェクト 推進事業等)]	たんば黎明館 (丹波市柏原町柏原688-3)
			(休 憩)	
	14:45	15:45	丹波農業改良普及センター [スマート農業の展開 (地域連携によるスマート 農業技術のシェアリング実証の取組等)]	たんば黎明館 (丹波市柏原町柏原688-3)
			(移 動)	
	17:30	(宿 舎)	宿泊：豊岡グリーンホテルモリス (豊岡市千代田町6-32)	
12/15 (水)		9:15	(宿 舎)	
			(移 動)	
	9:30	10:30	芸術文化観光専門職大学 [R3.4 開学。芸術文化と観光の二つの視点 から地域活性化を学ぶ日本で初めての大学]	豊岡市山王町7-52
			(移 動)	
	11:15	12:00	城崎国際アートセンター [専門職大学と連携する芸術文化施設]	豊岡市城崎町湯島1062
			(昼 食 ・ 移 動)	
	13:00	14:00	城崎温泉観光協会 [新型コロナの影響、観光協会の取組等]	城崎文芸館 (豊岡市城崎町湯島357-1)
		(移 動)		
	17:00		県庁3号館1階玄関前	

Ⅲ 調査目的、内容等

調査日	調査先・所在地	調査先概要・内容など
12/14 (火)	1 初代県庁館 (神戸市兵庫区) 【施設見学、バーチャルツアーなど】 ※バーチャルツアー(所要時間20分程度)は時間の都合上、希望者5名まで。	○兵庫県の成り立ちや五国の魅力を発信する拠点「県立兵庫津ミュージアム」の整備を進める中、幕末維新期に設置された最初の兵庫県庁舎を復元した「初代県庁館」が11/3にオープン。 ○知事執務室や庭園、仮牢、お白州など当時の歴史空間をリアルに体験。その他、最先端のバーチャルツアーやAR技術による写真撮影など。
	2 丹波県民局 県民交流室 (丹波市柏原町)	○移住・定住促進の取組として、移住・環流プロジェクト推進事業を実施 ○「たんば暮らしファン交流ステーション」として、丹波地域で元気に活躍する人材が、都市部の若者や子育て世帯と直接語り合う機会を増やし、相互に顔の見える関係を拡大 ⇒ 丹波地域への移住・環流を促進。
	3 丹波農業改良普及センター (丹波市柏原町)	○丹波地域における先端技術を活用したスマート農業の展開(ドローン・AIを利用した病害虫検知及びドローンによる農薬散布技術の実証等) ○地域連携によるスマート農業技術のシェアリング実証の展開
12/15 (水)	4 芸術文化観光専門職大学 (豊岡市山王町)	○但馬地域初の4年制高等教育機関として令和3年4月に開学。 ○1学部1学科で芸術文化と観光を学ぶ全国初となる「芸術文化・観光学部」の強みを生かし、地域社会をフィールドとした実習や実践教育、分野を横断し地域活性化に資する研究の推進、地域の多様な主体と協働した地域貢献活動を実施。
	5 城崎国際アートセンター (豊岡市城崎町湯島)	○県立芸術文化観光専門職大学と連携した現在行っている具体的な取組や、より相乗効果を発揮するために必要なこと等 ○城崎国際アートセンターと地域住民の方との関わり合い・交流状況等、地域貢献として力を入れておられる取組等を調査
	6 城崎温泉観光協会 (豊岡市城崎町湯島)	○新型コロナウイルス感染症等による影響や観光協会におけるコロナ対策、取組を調査。

※次ページ以降、各調査先での対応者、やりとり、所感等を記載。

1 初代県庁館

(1) 対応者

兵庫津ミュージアム整備室 岸本室長

(2) 所感・県政への活用に対する考察等

兵庫県の成り立ちや五国の魅力を発信する拠点「兵庫県立兵庫津ミュージアム」のうち、幕末維新时期に設立された最初の兵庫県庁舎を復元した「初代県庁館」が2021年11月3日にオープン。現地調査を行った。

神戸市兵庫区の和田岬、神戸市立中央市場と大型店舗イオンモールの隣接地、当時栄えた港、兵庫の津の要所にある。県産木材と淡路瓦を使用し、初代兵庫県知事である伊藤博文の執務室や庭園、お白州や仮牢など当時の歴史空間を再現している。

また、最先端のバーチャルツアーは約20分間あり、江戸時代、幕府のばく進として兵庫奉行だった柴田剛中と明治時代・初代兵庫県知事の伊藤博文が登場する。リアルで分かりやすく、面白かった。兵庫の歴史と、兵庫津が当時重要な場所であったことが理解できる。建物も新しく、気持ちよかった。入場、体験は無料。旧同心屋敷は貸しスペースとして利用できる。隣接の「ひょうごはじまり館」は建設中で、来年2022年下期にオープン予定。

兵庫県発祥の地である兵庫津の歴史、兵庫県誕生の物語、ひょうご五国の魅力を伝える博物館として有効に活用されるよう期待したい。



岸本室長からの概要説明



バーチャルツアー体験の様子

2 丹波県民局 県民交流室

(1) 対応者

丹波県民局県民交流室 日原参事、細見室長補佐兼県民課長、北田地域再生専門官

(2) 質疑・意見交換について

- ・移住・還流プロジェクトについては、コロナ禍によりオンラインによる活動が殆どであった。
- ・ターゲット層は20代から50代程度としており、プロジェクト参加者の約6割がターゲット層であったこと、参加者は阪神間が多いといった報告を受けた。
- ・移住を検討する人の仕事の形態については、場所を選ばない働き方ができることも重要な要素となっており、コワーキングスペースといった場所も必要であるとのことであった。
- ・移住に関しては、移住者が移住者を呼ぶという口コミの要素が強いとのことで、「タンバサダー」「移住コーディネーター」などは移住者になっている例が多く、移住の状況がよくわかった。特に、令和2年、3年度と移住者は増加傾向にあり、この要因は、コロナ禍が移住を考えている人たちの決断を後押ししたのではないかとの分析があった。
- ・その他、移住者への金銭的支援や住居確保の状況、事業委託に関することなどについて意見交換し、実態がよくわかった。

(3) 所感・県政への活用に対する考察等

議員からは、移住施策推進にはマーケティングにしっかり取り組む必要があるのではないかといった意見も出され、県民局からは、移住者の動向を把握する必要性を感じており、転入・転出届の際にアンケートをとるなどといったことも市と協議しているところであるとの回答があった。

移住施策については、県の役割は丹波地域を知ってもらうきっかけ、移住への流れをつくることで、具体的な施策は市が担うといった役割分担ができており、今後も現在の堅調な流れを維持できるように取り組みを進めて欲しいと願う。



上野幹事長からの挨拶

3 丹波農業改良普及センター

(1) 対応者

丹波農業改良普及センター 永井所長、湊普及主査
丹波農林振興事務所 東浦所長、稲本副所長

(2) 質疑・意見交換について

丹波農業改良普及センターから「スマート農業の展開～地域連携によるスマート農業技術のシェアリング実証の取組等～」について説明があり、各議員からの質疑や意見交換を行った。

●調査内容

① 地域特性の説明

特産品：黒大豆（日本農業遺産） / 大納言小豆 / 山の芋 / 稲
ブランドとしても確立し認知度も価格競争力も他に比べて維持できているが人口減少や少子高齢化等の影響から担い手の不足・高齢化、耕作放棄地増が深刻となっている。

② 解決策としてのスマート農業

『ラジコン草刈機』と『ドローン（農薬・堆肥・種散布）』

メリット：省力化 → 体力が衰えても（高齢者でも）農作業が継続できる
“農業＝重労働”のイメージを解消して担い手確保
兼業農家でもより広い耕地面積を担うことができる

収穫増 → 収益の増加により担い手確保

デメリット：ベンチャー企業が多数参入 → 農業者にとって選考が困難
イニシャルおよびランニングコストが高額
→ 稼働率を高くできなければ維持できない

〈ドローン〉

- ・特定の病気診断などで葉裏や根本の食害状況が必要な場合に航空写真・映像では不十分
- ・GPSが数メートル単位の精度しかなくより高い精度が求められる

③ デメリット解消およびスマート農業の普及に向けて

農業改良普及センターが各メーカーと連携し農業者に適した機器の選定をリードしたり、農業者向けに講習会を実施したりしている。

農業現場での課題をフィードバックし各メーカー機器の改良につなげている。

●質疑応答

(質問)：スマート農業普及のボトルネックは何か？スイッチコストか？

(回答)：コストに関しては収量の増加が見込めるため十分にペイできる。
ただし、今のところ機器の汎用性は少ない。

(質問)：メーカー提供価格は今後下がると予想されるか？

(回答)：ドローン 230万円→180万円くらいになると予想される。
センサーの例では20万円のものが5万円まで下がっている。

機能も含めて精査したうえで農業者に紹介する。

(質問)：稼働時間の設定はどうなっているか？

(回答)：オペレーターアンケートでは8時間（常勤）8haとなっている。

(質問)：JAと県で第3セクターを作ってドローン等の機器をシェアするのはどうか？

(回答)：オペレーターが本業でなかったり必要な運用実績が少なかったりと問題もある規模を大きくする必要があることは確実

(質問)：大規模農家は単独導入しているか？

(回答)：単独で導入している実績がある

(質問)：非農家にとっては草刈りが大きな課題となっているが、草刈機市場の今後は？

(回答)：なかなか適切な機械がないというのが実情。サイズが大き過ぎたり価格が高く、探して当該メーカーに到達した。小型で斜傾地も走行可能なうえGPSも搭載し価格も比較的手ごろ。

(質問)：メディア取材を受けることになった経緯は？

(回答)：メーカーの発信によるもので普及所としての発信力は弱く課題

(質問)：地域（農業者）との共有はできているか？

(回答)：不十分で情報を開示する程度にとどまっている

(3) 所感・県政への活用に対する考察等

農業従事者の高齢化が進む中、重労働からの解放は喫緊の課題である。実証実験の成果は丹波だけのものではなく、全県に紹介できるような大変価値のあるものであると感じた。今後の課題として、コストの低減が必要であることから、農家や機械メーカー、JAや行政が一体となって進めていただきたい。



永井所長からの挨拶



農業用ドローン

4 芸術文化観光専門職大学

(1) 対応者

平田オリザ学長、藤野副学長、川目副学長、日光事務局長

(2) 質疑・意見交換について

- ・市民との共同イベントにはどのようなものがあるのか。
⇒ 近隣の支援学校への演劇指導など。新型コロナの影響もあり、なかなか交流イベントが実施できていない状況である。
- ・芸術文化観光専門職大学と地域の連携はどのように図っているのか。
⇒ 但馬3市2町との地域連携事業として、但馬地域の高校（全17校）を対象に、演劇的手法を活用したワークショップのほか、様々な取組を実施。他にも、企業との連携事業・連携協定を結び、共同研究や共同実証実験を実施。
- ・淡路景観園芸学校も開学当初は志望者が多かったが、徐々に減っていった。何か対策を考えておられるのか。
⇒ 地道に在学生のロコミを広げることが大切と考えている。先生・保護者への働きかけを継続して実施したい。 等

(3) 所感・県政への活用に対する考察等

- ・一部備品に非常に高額な物品が存在していた。県議会での予算審査において、どのレベルまで審査すべきか検討課題である。
- ・入学選考が1学校1名と平等のような不平等。最低でも日本トップ、できればアジア最高の芸術系大学を目指すうえでは完全な実力主義で選考すべきだ。



平田オリザ学長からの挨拶



校内説明の様子

5 城崎国際アートセンター

(1) 対応者

城崎国際アートセンター 志賀館長
豊岡市環境経済部 中田大交流課長

(2) 質疑・意見交換について

●調査内容

①城崎国際アートセンター (KIAC)

a) 施設概要

大ホール1、小スタジオ6

宿泊施設 (22名宿泊可能、滞在期間は3日~3ヶ月、宿泊費施設利用費は無料)

b) 活動概要

アーティスト制作活動の支援 (アーティスト・イン・レジデンス公募事業)

地域との交流 (試演会・リーディング・ワークショップ・アウトリーチなど)

②芸術文化専門職大学との連携

a) 臨地実務実習

授業の1/3 (約800時間) を実習に充て、地域や舞台に現場の実践力を育成

b) 地域連携事業

大学の研究シーズである「芸術文化」「経営」を活かして地域課題を解決

- ・高校生コミュニケーションワークショップ
- ・ジュニアカレッジ事業
- ・鉄道利用者ニーズ調査分析事業実施業務
- ・コミュニティツーリズム推進事業

●質疑応答

- ・芸術文化観光専門職大学とのコラボレーションは?

→コロナ禍により、まだコラボの実現には至っていない。今後は豊岡芸術祭などを通してコラボしていく予定。

- ・豊岡市長が演劇推進派から慎重派に交代した影響は?

→豊岡で既に演劇という大きな船は動き出しており、住民が地元で様々な演劇文化を楽しめる段階に至っている。ゆえに懸念していたほどの影響は感じていない。

(3) 所感・県政への活用に対する考察等

今回、芸術文化観光専門職大学の開学にとともに、大学を視察するとともに、大学と連携する地域組織や団体に話を聞いた。その1つが城崎国際アートセンターである。当センターは、地域と交流しながら演劇活動等に取り組んでおり、新大学が強力な連携先として期待を寄せている施設である。

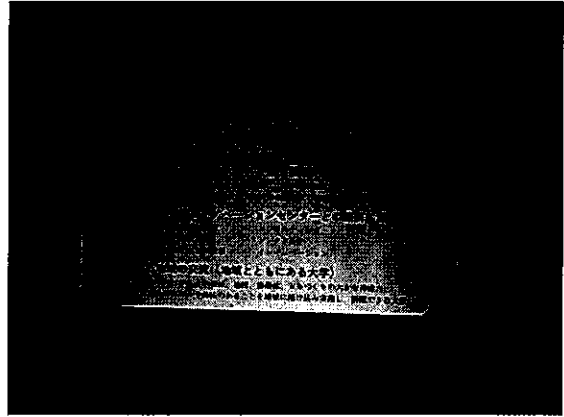
説明を聞いて感じたのは、「演劇の街 豊岡」が想像以上に定着していることであった。一定の取り組み年月を経て様々な実績を積み重ねており、恒例の「豊岡演劇祭」は大規模かつハイレベルとのこと (コロナで規模縮小しているが)。住民にとって、地元で様々な演劇を楽しめるコンテンツが充実しているフェーズに至っていることがわかった。ただ、説明者の館長いわく「住民にとって演劇 (芸術) と生活が結びついていな

かった反省がある」とのこと。

専門職大学との連携も、コロナ禍で未だ取り組めていないとのこと。今後は専門職大学とのコラボレーションを1つの景気に、演劇（芸術）と生活がリンクする取り組みに一層幅が広がることを期待する。



志賀館長からの挨拶



芸術文化観光専門職大学との連携

6 城崎温泉観光協会

(1) 対応者

城崎温泉観光協会 高宮会長

(2) 質疑・意見交換について

- ・(コロナの影響) 11月からお客様戻ってきた。県民割の効果あり。
- ・専門職大学の様々な効果あり。
- ・2023年JRのディスティネーションキャンペーンが決定。
- ・「城崎温泉は一つの旅館である」という考え方。駅は玄関、通りは廊下、旅館は客室、外湯は大浴場。スローガンは「共存共栄」。
- ・1970年頃、暴力団追放運動、屋台撤去に成功。
- ・1980年頃から、温泉とカニだけで30年ぐらいやってきたが、今は新たな価値を付加している。
(文学やスポーツなど。後述)
- ・2010年頃、団体客が減り、個人客にシフト。女性、家族狙い。
- ・2012年頃、外国人誘致活動を開始。
- ・万城目学さん、湊かなえさんに小説を書いてもらい、文学への取組みが始まる。志賀直哉だけに頼らない。
- ・2020年、開湯1300年を迎える。
- ・1996年(平成3年)には92万人だった宿泊客が、2019年(令和元年)には60万人に減少。



高宮会長からの説明

- ・コロナの影響で、2020年4月27日から5月末日まで、エリア一体で休業を自主的に決定。旅館だけでなく、飲食店、お土産屋さん、魚屋さん、酒屋さんなどすべて。
- ・DX関連として、7つの外湯の混雑状況がわかる「ゆめば」開始のご紹介あり。
- ・目標は「関西ローカルからの脱却」。全国の温泉地では10位。首都圏からのお客様が少ない。直行便が欲しい。
- ・今後の取組み→1. 文化ツーリズム、2. スポーツ&ヘルスツーリズム、3. 城崎DX、4. 安心安全なまちあるき。
- ・スポーツ文化ツーリズムアワード2021で「文化ツーリズム賞」受賞。「豊岡演劇祭を契機とした文化観光推進事業」。有名なフランスの女優も長期間滞在。
- ・芸術文化観光専門職大学ができたことで、約30人の教員の方々と様々な取組みが可能になった。
- ・豊岡演劇祭では公式に13ヶ所15公演、フリンジで30公演。朝来、神鍋、竹野でもやった。
- ・スポーツによる地方創生、まちづくり。スポーツツーリズム。
- ・エリアごとのスポーツを組み合わせる。竹野では海水浴、ダイビングなど。城崎ではサイクリング、ハイキング、座禅など。神鍋ではパラグライダー、スキー&ボードなど。
- ・温泉地活性化に向けて「新・湯治」（環境省）の新しい展開。ヘルスツーリズム。旅をきっかけに健康増進・維持・回復・疾病予防に寄与。
- ・ワーケーションも意識。
- ・城崎DX（デジタル化）。「城崎DX観光プラっとフォームをつくる」とのこと。すべての温泉宿の予約状況を把握し、ベストなプライシングの提供などに利用したいと。現在は、旅行業者との関係もあり、季節によるカニの有無や、平日と土日祝などの2パターンのプライシングしか出来ていない。
- ・安心安全なまちあるき→メインの川筋の道が狭い中、車がビュンビュン通って、安心して歩けない。→北側に桃島バイパス構想（兵庫県関与/社会基盤整備プログラム）。
- ・円山川はボート競技に適している。国際レースもできる。競技会場と宿泊地が近いのが売り。
- ・風営法が古いので見直して欲しい。

(3) 所感・県政への活用に対する考察等

これまでの温泉地としての取り組みや経緯についてご説明をいただき、また城崎の現状認識、立ち位置を理解していること、そして今後目指す方向性などを具体的に聞くことができ、大変よくわかりました。県として応援できる部分は応援したいと思いましたし、今後の城崎温泉の発展が楽しみです。アートの力、文学、スポーツなど温泉以外の魅力との連携によるさらなる街の発展を祈念しています。